
夜の裏側

乙未七菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜の裏側

【Zマーク】

Z9932V

【作者名】

乙未七菜

【あらすじ】

カードを裏返す彼女を裏返すはなし。

彼女は暗い部屋の中、カードを並べてはひっくり返すを繰り返す。無造作に広げられたかのカードにはすべて意味があると言い、僕はドアのこぢらから、彼女が顔を上げるのをずっと待っている。

陽は昇り落ち、午後になれば窓から長い影が射す。

ああでもないこうでもないと、うすくまり頭を抱える彼女の長い影が僕の足元まで伸びる。オレンジ色の光が部屋を包む。

眠る間も惜しむ。目を開き、まばたきさえ億劫だと言わんばかりに彼女はカードを並べては裏返す。

それが彼女の仕事だと言わんばかりに。

返されたカードは用済みで、ただただ部屋の片隅に山を造る。僕は彼女の短い眠りの間、こつそりとそのカードを集めてしまつことに書かれた図柄を眺めることが、いつからか口課になってしまった。

陽が落ち、電灯のない部屋を闇が染めると、図柄が見えないからと彼女の手は止まる。カードを裏返していないと彼女は不安に取り憑かれてしまうから、闇に紛れ、僕はそつと背中から彼女を抱いた。ひっくり返すだけの彼女をひっくり返せるのは、きっと僕くらいなのかもしない。くるりと僕の方を向いた彼女を見るのは、きっと僕くらいのかもしない。

彼女も僕も、ただ並べては裏返す、といつ点においては同等である。だから僕は彼女を抱くことしかできないし、彼女はカードを裏返すことしかできない。

夜はやさしい。

見るべきカードを隠してしまつから。

夢は親切だ。

カードを裏返せない罪悪感を少しでも軽減してくれるから。

伸びた影が重なることはない。

彼女が裏返すカードの意味を僕が理解出来ないからだ。

僕はただ、彼女が夢の隙間で裏返すカードの図柄を想像しては、

夜を待つてゐる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9932v/>

夜の裏側

2011年10月3日08時34分発行